

### 第3 問題作成部会の見解

#### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方・考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。

問題の作成に当たっては，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

#### 2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に関する大問である。ここでは，乾燥・半乾燥地域における生活・産業の特徴をテーマとした。問1では，モロッコの建物と農業の景観写真から，自然環境と生活文化の関わりについて捉える力を，問2では，西アジアを事例に，生活や産業の成立に必要な水の獲得方法について比較考察する力を問うた。問3では，南アメリカを事例に緯度や標高の違いによって生じる気候変化と生活環境について推察する力を，問4では，アジア周辺を事例に，自然環境に適応した家畜飼育の展開について，GISで作成した地図を用いて推察する力を問うた。大問全体の難易度はおおむね標準的であったと考える。

第2問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(2) 生活圏の調査と地域の展望」に関する大問である。津軽平野とその周辺地域について，第一次産業に焦点を当て，人々の生活と自然環境との関わりを通して形成された地域の特徴を主題とした。生徒が資料やデータを集めながら主体的に地域調査を行う場面を想定した問いを配置した。問1では，津軽平野とその周辺地域を事例に，農業と自然環境との関わりについての理解度を判別することを企図した。問2では，ため池を題材に，地図の読図を通じて，地形に対応した灌漑の特徴やそれによるリスクについて推察する思考力を問うた。問3では，十三湖のシジミ漁を題材に，第一次産業の成立に寄与する自然環境や人間活動と，同産業の持続可能性についての理解度を，そして問4では，リンゴを題材に，食料品貿易における生産地と消費地との結び付きについての理解度を判別することを企図した。大問全体での得点率は他と比べてやや高かった。

第3問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(1) 自然環境と防災」に関する大問である。風や降水量などの自然条件や典型的な地形，水害をテーマとした。問1では，風速と降水量についてのグラフから，日本の自然環境について捉える力を，問2では，複数の河床縦断面図から日本の河川が作る地形についての理解を，問3では，地形図から山間地の典型的な地形を読み取る力を，問4では，洪水時と高潮時の適切な避難施設についてGISで作成した地図を用いて推察する力を問うた。大問全体の平均点は他の大問と比べるとやや低かった。

第4問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に関する大問である。持続可能な社会の実現を脅かす様々な地球的課題と，それらの解決を目指すための国際協力の内容について，バランスを意識して取り上げた。問1では，CO<sub>2</sub>排出量とエネルギー供給量との関係を図から読み取り，温暖化対策に見られる

国ごとの違いを推察する思考力を問うた。問2では、降水量の中期的変動の傾向を図から読み取り、北アメリカ大陸における降水分布の変化とその影響の在り方について推察する思考力を問うた。問3では、都市問題とその解決に向けた取組を写した写真を読み取り、諸課題が生じた原因を推察する思考力を問うた。問4では、ODAやNGOによる援助活動及び日本企業の海外進出に関する主題図を読み取り、日本の国際協力活動の空間的特徴について推察する思考力を問うた。大問全体の平均点は標準的であった。小問の正答率は、問3が高い一方、問2が低かった。

### 3 自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第1問 大問全体として標準的な難易度の設問で構成されており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方をを用いて、多面的・多角的に考察できる適切な問題と評価された。問1は、モロッコ内陸部を事例に、写真と文章から乾燥・半乾燥地域の自然環境と住居、農業について考察する問題、問2は、西アジア周辺的生活用水の確保について、自然環境や社会環境と関連付けて考察する問題と評価された。問3は、雨温図と生活文化から、南アメリカ大陸の地点を判別する問題であり、問4は、アジア周辺の幾つかの家畜の分布から、砂漠化を促進させる要因を問う新課程らしい問題と評価された。他方、全体として、自然環境と生活文化を主題とした問題であったため、国際理解や文化の変容など、学習指導要領が示す主題からの出題も求められた。さらに、出題形式についても、学習場面を設定した形式への工夫が求められた。また、問3は、図中に標高が示されていないため、知識を問う問題に見えるとの指摘があった。今後はこれらの点を含め、作問に努めたい。

第2問 地域調査を行う場面を想定した本設問に関して、全体については、地域を多面的・多角的な視点から考察する出題形式であり適切な内容との評価を得た一方で、地図に関する基本的な地理的技能を活用した問題があると、より「地理総合」に合致した大問になると指摘された。問1は、三つの市の地図上での位置と景観写真を照合しながら統計を読み取る形式であり、地理的な見方・考え方に基づく基本的な問題として評価された。問2は、難易度は低いものの、基本的な地理的技能を測ることができる問いであるとの評価を得た。問3は、地域の産業の持続可能性というテーマは評価された一方で、付加価値を高めての販売が低価格では行われないことが判断できれば容易に解答に辿りついてしまう点が課題として指摘された。問4は、南北半球でのリンゴ収穫期の違いについて問われた比較的容易な問いであるものの、地域調査の大問でありながら世界との結び付きにまで発展させている点や、「地理総合」から中学校社会科地理的分野で学習するような基本的知識をベースとした出題は、中高の学習内容を接続する点で意義深いとの評価を得た。全体的には、基本的な知識が問われているものが多く、難易度は平易であるとの評価であった。こうした評価を踏まえ、今後、出題形式や難易度のバランスにも配慮しつつ、思考力を問うことのできる問題作成に努めたい。

第3問 大問全体として標準的な難易度の設問で構成されており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方をを用いて、多面的・多角的に考察できる適切な問題と評価された。問1は、風速と降水量の季節変化から日本の気候について考察する問題だが、地点数が多く読み取りがやや困難であると評価された。問2は、河床縦断面図から日本の地形について考察する問題で、読み取りの難易度は易しいと評価された。問3は、山地の典型的な地形からそれぞれの場所での物質移動や地形形成について考察する問題であり、「地理総合」の内容を踏まえた出題の工夫が必要との評価を受けた。問4は、洪水時と高潮時の適切な避難場所についてGISの分析から考察する問題で、GISの有用性を実感できると評価された。今後は、資料の視認性の向上や、

科目の内容に即した、より洗練された問題作成に力を入れたい。

第4問 「現代社会における地球的課題と国際協力」というテーマに即して、二酸化炭素と温暖化、気候変動と農業、都市問題、日本の国際協力という多様な内容をバランス良く取り上げたと評価された。問1は、全体的には基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されていると評価された。問2は、地図や資料から読み取った内容を基にした思考力を問う内容で構成されていると評価されたが、気候や農業について「地理探究」を履修していない受験者にはやや難易度が高い個別的知識が求められていると指摘された。問3は、発展途上国の大都市が直面する課題や対策について、写真から読み取れる事柄と、スラムや交通渋滞に関する知識を関連付けて判断する標準的な難易度の問題と評価された。問4は、海外における日本のNGO団体数、日本のODA供与額、海外における日系企業の拠点数の分布を示す地図からそれぞれの傾向を読み取り、各指標を判断する標準的な難易度の問題と評価を受けた。全体的に標準的な正答率であった。一方で、正答の判断に当たり「地理総合」の内容としては難易度が高いものが含まれるという指摘を受けた。受験者にとって、学習内容に基づき、地理的な見方・考え方が問われたという納得感が得られる作問を目指し、さらに工夫を続けたい。

#### 4 今後の問題作成に当たっての留意点

- (1) 「地理総合」の学習内容を踏まえ、高等学校での学習を通して身に付けた地理的な知識、技能や思考力、判断力などに基づき、地図や統計、写真などの資料を読み取って考察する問題によって構成されていると評価された。「場面設定」の大問では、学校現場の参考となる出題であることが評価された一方、各小問については生徒の興味・関心に応じた探究プロセスとして工夫を求めたいと要望があった。一部の問題では、「地理探究」の学習範囲と考えられる知識や内容を扱った問題もあったと指摘があり、この点について留意する必要がある。また、防災や国際協力といった「地理総合」らしいテーマの作問や、地域を様々なスケールで捉える出題が期待されている。今後の問題作成に当たり、地理的な知識、技能と思考力、判断力について、高等学校における学習内容に基づき各大問及び小問で総合的かつ適切に問えるよう引き続き検討を続けていきたい。
- (2) 難易度について、平均点は地理総合 50 点満点で 24.27 点であった。外部評価でも全体的に適正な難易度であり、与えられた資料から情報を読み取ることで解答が可能と評価された。適切な難易度となるよう、図表の読み取りとリード文のバランス等について引き続き慎重に検討・留意したい。
- (3) 地図や資料の活用について、昨年度と比較して、写真や地図などが読み取りにくい設問や、選択肢の表現の意図する内容がわかりにくい設問が減少し、全体として適切になったと評価された。また、問いかけや資料の提示の仕方、レイアウトや表現が工夫されているとの評価も得た。ただし、一部の地図が小さく読み取りにくかったという指摘もあった。主題図やグラフなどについて、視認性も含めて適切な表現方法等に留意しつつ、適切に問える提示方法を検討していきたい。
- (4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿った問題であると評価された。今後も受験者が身に付けた地理的な知識、技能に基づき、思考力、判断力を働かせて解答に臨める問題の作成を継続していきたい。
- (5) 全体として、「地理総合」の学習範囲を逸脱することなく、高等学校での学習を通して身に付けた地理的な知識、技能や思考力、判断力などに基づき、地図や統計、写真などの資料を読み取って考察する問題によって構成されていると評価された。「場面設定」の問題では、学校現場の参考となる出題であることが評価された一方、各小問については生徒の興味・関心に応じた探究プロセスとして工夫を求めたいと要望があった。一方、「地理総合、地理探究」との共通問題では、「地

理探究」の学習範囲と考えられる知識や内容を扱った問題もあったと指摘があり、この点について留意する必要がある。また、防災や国際協力といった「地理総合」らしいテーマの作問や、地域を様々なスケールでとらえる問題の出題が期待されている。今後の問題作成にあたり、地理的知識、技能と思考力、判断力について、教科書の学習内容に基づき各大問及び小問で総合的かつ適切に問えるよう引き続き検討を続けていきたい。